



遅れてきた黄金世代

小学生までは「二刀流」だった。本格的にクラブを握ったのは8歳。それより前に始めたのがストリートダンスで、幼稚園の年中から中学に入学するまで熱中した。

4度失敗し、21年11月に5度目の挑戦にしてようやく合格。「浪人時代」には、単身で台湾ツアーに参戦するなど挫折と苦労を経験した。

先生の踊りを見ながら、その場で振りを覚えていく。その経験がゴルフに生きているようで、「見ているだけで、自分の動きを真似するのが得意。憧れのミンシ・リーさん（豪州・世界ランク6位）のスイングを頭に植え付けてイメージを出している」とは本人。

自身の高校時代から一緒にラウンドし、今もアドバイスをもらう関係だという。また、米大リーグ・メッツの千賀、ソフトボールの上野らがトレイルの黄金世代。福岡・太宰府市出身で地元の九州ではジュニア時代から有名だった。第一学院高時代は九州ジュニアゴルフ選手権2位、2019年には日本予選を突破してメジャーの全米女子オープンにも出場した。

プロ1年生の昨年は4戦目で16位タイに入るなど、35試合で約1740万円の賞金を稼いだ。今季は黄金世代13人目となる優勝を狙う。